

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市文化協会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課				款	2	新規or継続	継続事業
	係	文化推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2311	名称	根拠法令、条例等		目	18	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	1	文化芸術に触れる機会の充実						
				佐野市補助金等交付規則					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市文化協会に運営費補助として補助金を交付する。
------	---------------------------

（2）目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	（3）目標値	↓選択して下さい				後期計画			
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		文化協会の正会員数	人	値が大きいほど良い	1,161	1,170	1,170	1,180	1,200
		市民文化祭への参加・入場者数	人	値が大きいほど良い	6,081	6,090	6,100	6,150	6,200
		佐野市文化協会の円滑な運営と財政の健全化を図る。							

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	（市の活動） ・文化協会に補助金を支出するための手続きを行う。 ・市民文化祭の共催（前期・後期） （佐野市文化協会の活動） 総会、市民文化祭（前期・後期）、各部門の活動推進,市長との意見交換会及び文化行政に関する提言書の提出、機関紙「さの文化」発行	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		市民文化祭実施部門数	部門	19	18	17	17
		実施事業及び会議等実施数	回	33	38	33	29
		事業費計	千円	2,174	2,474	2,474	2,474
		一般財源	千円	2,174	2,474	2,474	2,474
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		文化協会の正会員数	人	1,244	1,250	1,161	1,161	効果が下がった	○
		市民文化祭への参加・入場者数	人	5,317	7,182	6,009	6,081	効果が下がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	0指標	達成		2指標
	効果は変わらない指標数	0指標	未達成		
	効果が下がった指標数	2指標	目標未設定		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し				

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

文化協会の事業実施について、検討を促し支援する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 文化協会の年度の事業計画を確認して各事業の時期を把握し、早めに検討協議を提案する。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	全国大会等出場者支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課		全国大会等出場者支援事業		款	2	新規or継続	継続事業
	係	文化推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2311	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	18	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	佐野市文化芸術活動全国大会等出場奨励費の交付に関する要領		開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	—	事業分類	現金等給付事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	1	文化芸術に触れる機会の充実						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	本市の文化芸術活動の充実を図るため、小・中・高等学校や市民等の文化活動を奨励する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	全国大会等出場者の負担を軽減し、贈呈式によって文化活動を行う児童、生徒、市民の意識向上につなげることで、本市の文化芸術活動の充実を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		文化活動に参加・鑑賞している人の割合	%	値が大きいほど良い	58	47.5	48	48.5	49

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・文化関係部活動状況調査及び奨励費の案内（4月～5月） ・奨励費交付5件（贈呈式4件、学校訪問1件実施） 【交付内訳】 （個人）佐野高校囲碁・将棋部 1件 音楽 1件 （団体）佐野東高校箏曲部 1件 将棋 1件 佐野東高校吹奏楽部 1件	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		市内小・中・高生数	人	11,919	12,186	12,382	11,837
		市内文化部活動数	団体	98	102	113	106
		奨励費申請数	件	4	5	6	5
		事業費計	千円	80	60	35	75
		一般財源	千円	80	60	35	75
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	申請のある部活動の種目が多種にわたるようになり、個人からの申請も見られるようになるなど、文化活動で活躍する児童生徒の増加と事業の認知度の向上が着実に図られていると言える。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			文化活動に参加・鑑賞している人の割合	%	43	48	47	47	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標		達成		
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

個人が複数の全国大会に出場するケースや外的要因による贈呈式延期等、状況に適した奨励方法を検討し対応する必要がある。 また、令和7年9月1日より、交付対象者を拡大したため、今後の交付決定の傾向を注視する必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ①交付決定者と確認を行い、贈呈式の実施、奨励方法を適宜対応する。 ②交付決定の件数や金額の傾向を確認し、予算額を検討する。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	全国美術館会議参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	吉澤記念美術館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2311	名称	根拠法令、条例等		目	7	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H15	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	1	文化芸術に触れる機会の充実						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	全国美術館会議に係る経費
------	--------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	全国美術館会議に加入し、美術館の今後の動向や最新情報を得る。また、教育普及活動や展示方法についての技術の向上を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	後期計画			
		会議参画が有意義であると感じている美術館関係職員割合	%	値が大きいほど良い	100	R8	R9	R10	R11

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	(市の活動) 全国美術館会議に負担金の支出 (全国美術館会議の活動) 総会・講演会・学芸員研修会等の開催、その成果や各種情報を会員に提供する。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議出席日数	回	0	0	1	1
		会議等出席者数(のべ人数)	人	0	0	1	1
		機関誌収集数	部	2	6	6	4
		事業費計	千円	30	30	30	30
		一般財源	千円	30	30	30	30
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	美術館の今後の動向や最新情報を得られた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		会議参画が有意義であると感じている美術館関係職員割合	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	1指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

美術館の今後の動向や最新情報を得られており、全国美術館会議に参画することは必要なことである。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td></td></tr><tr><td>現状を維持する。</td><td></td></tr></table>	取組説明		現状を維持する。	
取組説明					
現状を維持する。					

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	子どもふれあい文化芸術事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課		子どもふれあい文化芸術事業		款	2	新規or継続	継続事業
	係	文化推進係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2311	名称	根拠法令、条例等		目	18	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業 期間	開始年度	H30	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	1	文化芸術に触れる機会の充実						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	子どもたちの豊かな心を育むため、アウトリーチ事業（市内小学校、義務教育（前期課程）への訪問事業）を行い、本物の音楽や美術等に直接触れる機会を提供する。市の事業にあっては、指導者を地元在住や地元出身のアーティストに依頼することで、子どもたちの文化芸術に対する思いや、地域との関わりがより身近に感じられるようになる。
------	--

（2）目的		（3）目標値		↓選択して下さい	後期計画				
目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	児童、生徒たちが、優れた文化芸術に触れ体験する機会を提供することで、子どもたちの文化環境をより充実したものにする。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		対象校における実施率	%	値が大きいほど良い	56	61	60	60	60
		全児童における参加率	%	値が大きいほど良い	37	40	40	40	40

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	延べ10校13回実施 佐野小（6月）、あそ野学園（6月）、葛生義務教育（6月）、多田小（10月）、界小（10月）、葛生義務教育（10月）、吉水小（11月）、多田小（11月）、栃本小（12月）、旗川小（12月）、天明小（1月）、出流原小（1月）、旗川小（1月）	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		事業実施数	回	15	14	14	13
		事業費計	千円	500	500	460	420
		一般財源	千円	490	500	460	
		特定財源（国・県・他）	千円	10			420
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（３）活動による効果		（４）事業効果を説明する数値データの推移							
効果説明	実施率は全体の５割から６割の水準で維持されており、広く認知及び定着が図られていると言える。また、講師の登録件数、ジャンルも充足しており事業の充実化が図られている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		対象校における実施率	%	67	67	61	56	効果が下がった	○
		全児童における参加率	%	40	52	29	37	効果が下がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標
	目標未達成だった指標数	0指標
	効果が上がった指標数	0指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	2指標
指標全体		効果が下がった
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し

※ 10万円以上の増減により判断

		効果		
目標達成	達成	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
				2指標
	未達成			
目標未設定				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

学校の担当者が変わったことで、講師の方との連絡調整に滞りが生じる場面が見受けられた。次年度は、年度当初に学校担当者との連絡を取り、事業が円滑に進むよう流れの確認を行う必要がある。また、事業実施校の教職員を対象にアンケート調査を実施し、本事業の効果について把握する必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ・学校担当者との連携を強化する。 ・引き続き事業実施校の教職員を対象にアンケート調査を実施し、本事業の効果を可視化する。
--	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	文化施設指定管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	文化推進課				款	2	新規or継続	継続事業
	係	文化推進係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2311	名称	根拠法令、条例等		目	19	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	佐野市文化施設条例 佐野市文化施設条例施行規則	事業期間	開始年度	H22	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	1	文化芸術に触れる機会の充実						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	文化・芸術や各種催しなど、市民や各種団体が快適かつ安全に文化施設（文化会館及び葛生あくとプラザ）を利用できるよう、指定管理者により施設の運営と維持管理を行う。
------	---

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	市民や各種団体が快適かつ安全に文化施設を利用できるようにする。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		文化会館利用件数	件	値が大きいほど良い	0	0	1,150	1,155	1,160
		葛生あくとプラザ利用件数	件	値が大きいほど良い	505	510	445	450	455
		文化施設利用者の満足度	%	値が大きいほど良い	87.5	87.5	87.5	88.0	88.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	指定管理者が実施した、主な事業運営及び維持管理は以下のとおりであった。 ・事業運営（自主事業） 文化会館 0 件、葛生あくとプラザ 1 0 件 ※文化会館はR6より休館中 ・維持管理（修繕・植栽） 文化会館 7 件、葛生あくとプラザ 2 2 件	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		自主事業開催数	回	14	17	10	10
		修繕・植栽管理実施回数	回	46	51	24	29
		事業費計	千円	115,189	115,699	72,327	75,938
		一般財源	千円	115,189	114,599	72,284	75,738
		特定財源（国・県・他）	千円		1,100	43	200
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	・令和6年度より佐野市文化会館がリニューアル工事中により閉館している影響で、葛生あくとプラザの利用者が増加した。 ・文化会館閉館前と比較し利用者の満足度が低下しているが、未記入者の割合が増加したことが原因である。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		文化会館利用件数	件	751	1,003	0	0	効果が下がった	○
		葛生あくとプラザ利用件数	件	247	222	336	301	効果が上がった	×
		文化施設利用者の満足度	%	80	80	63	76	効果が上がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	2指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	1指標
	指標全体	効果が上がった
	費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

葛生あくとプラザの運営は順調に行えている。令和9年度文会館リニューアルオープンに向けて、指定管理者と緊密な関係を築き、十分に協議をかさね、準備を進める必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 令和8年度までは、文化会館が休館のため、葛生あくとプラザの利用件数は多い状況が想定される。令和9年度の文化会館リニューアルオープン後も引き続き、葛生あくとプラザも利用してもらえるよう、より丁寧な運営が求められる。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	日本博物館協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	吉澤記念美術館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2311	名称		目	7	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	H15	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	文化芸術活動の推進					
	基本事業	1	文化芸術に触れる機会の充実					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	日本博物館協会参画に係る経費
------	----------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	日本博物館協会に加入することにより、美術館・博物館の全国的な傾向について類似施設の状況や最新情報を得る。また、教育普及活動や展示方法についての技術の向上を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	後期計画			
		会議参画が有意義であると感じている美術館関係議員の割合	%	値が大きいほど良い	100	R8	R9	R10	R11

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	(市の活動) 日本博物館協会に負担金の支出 (日本博物館協会の活動) 総会・講演会・学芸員研修会等の開催 各種研究・調査結果を会員に情報提供	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議出席日数	回	0	0	0	0
		会議等出席者数(のべ人数)	人	0	0	0	0
		機関誌収集数	部	12	12	12	12
		事業費計	千円	25	25	25	25
		一般財源	千円	25	25	25	25
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	美術館・博物館の全国的な傾向について類似施設の状況や最新情報を得られた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		会議参画が有意義であると感じている美術館関係議員の割合	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	1指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

美術館・博物館の全国的な傾向について類似施設の状況や最新情報を得られており、日本博物館協会に参画することは必要なことである。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 現状を維持する。
--	-------------------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	栃木県博物館協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課		栃木県博物館協会参画事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	吉澤記念美術館				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2311	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	7	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H15	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	1	文化芸術に触れる機会の充実						
			博物館法						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	栃木県博物館協会参画に係る経費
------	-----------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	栃木県博物館協会に加入し、美術館・博物館の県内の傾向について類似施設の状況や最新情報を得る。また、教育普及活動や展示方法についての技術の向上を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	後期計画			
		会議参画が有意義であると感じている美術館関係議員の割合	%	値が大きいほど良い	100	R8	R9	R10	R11

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	(市の活動) 栃木県博物館協会に負担金の支出 (栃木県博物館協会の活動) 総会・講演会・学芸員研修会等の開催 機関誌の発行 会員への各種情報提供 H27から栃木県内「M割」(ミュージアム共通割引制度)の実施が始まった。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議出席日数	回	2	2	1	0
		会議等出席者数(のべ人数)	人	2	2	1	0
		機関誌収集数	部	1	1	1	1
		事業費計	千円	5	5	5	5
		一般財源	千円	5	5	5	5
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	美術館・博物館の県内の傾向について類似施設の状況や最新情報を得られた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		会議参画が有意義であると感じている美術館関係議員の割合	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標	達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標	未達成		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果は変わらない	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

美術館・博物館の県内の傾向について類似施設の状況や最新情報を得られており、栃木県博物館協会に参画することは必要なことである。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 現状を維持する。
---	----------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	美術館展覧会開催事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	会計科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	吉澤記念美術館			項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2311	名称	事業期間	目	7	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度		事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	文化芸術活動の推進					
	基本事業	1	文化芸術に触れる機会の充実					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	美術館の企画展開催に係る諸経費
------	-----------------

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民や美術愛好者に展覧会を観覧して満足してもらい、美術への関心を深めてもらう。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		「見て満足した」と答えた入場者（アンケート回答より）	%	値が大きいほど良い	100.0	97.0	97.0	98.0	98.0
		美術館企画展観覧者数	人	値が大きいほど良い	7,000	8,000	6,000	6,500	7,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・企画展の開催 「空と水のあいだ」 「江戸から明治、本と浮世絵のオドロキ」 「関東南画の良き友」 「工業と絵画」 「セットでたのしみ絵画と工芸」	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		所蔵企画展の開催数	回	3	4	3	3
		特別企画展の開催数	回	2	1	2	2
		事業費計	千円	3,522	4,070	8,293	4,701
		一般財源	千円	3,522	4,070	386	4,134
		特定財源（国・県・他）	千円			7,907	567
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	市民や美術愛好者に展覧会を観覧して満足してもらい、美術への関心を深めてもらった。	(4) 事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			「見て満足した」と答えた入場者（アンケート回答より）	%	99.1	98.6	97.2	96.9	効果が下がった	×
			美術館企画展観覧者数	人	4,745	3,150	7,931	4,528	効果が下がった	×

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	2指標				
	効果が上がった指標数	0指標				
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	2指標				
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が下がった	目標達成	達成		
			未達成			2指標
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用は下がった	目標未設定			

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和7年度は菜蟲譜を展示し、「江戸から明治、本と浮世絵のオドロキ」展では初公開の浮世絵を展示した。また「工業と絵画」展では、一見結びつかない工業と美術をテーマにした展示で好評を得た。引き続き、美術への関心を深めてもらうような展覧会を計画する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 年間のうち一定期間、菜蟲譜を展示する期間を設け、観覧者数の増を図る。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	美術館講座等開催事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課		美術館講座等開催事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	吉澤記念美術館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2311	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	7	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	1	文化芸術に触れる機会の充実						
				博物館法					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	美術館において、展覧会以外に、講座等開催し、美術館や美術に親しむ機会を提供する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民や講座受講者に講座への参加をきっかけに、郷土や美術への理解を深めてもらう。また、美術鑑賞の楽しみ方や美術館の魅力を知ってもらう	(3) 目標値	↓選択して下さい	後期計画					
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		参加者に対する市民の割合	%	値が大きいのほど良い	90	70	70	80	80
		満足を感じた人の割合 (アンケート回答より)	%	値が大きいのほど良い	100.0	90.0	90.0	90.0	90.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	「江戸から明治、本と浮世絵のオドロキ」展記念講演会 9/23 参加者 61名	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
	陶芸教室 10/11 参加者 17名	講座等開催数	回	1	1	2	5
	「工業と絵画」展特別講演会 2/28 参加者 70名	事業費計	千円	96	46	64	120
		一般財源	千円	56	22	41	93
	鉱山・工場見学ツアー 2/26、3/6 参加者 26名	特定財源（国・県・他）	千円	40	24	23	27
		（うち受益者負担）	千円	40	24	23	27

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	郷土や美術への理解を深めてもらい、美術鑑賞の楽しみ方や美術館の魅力を知ってもらった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		参加者に対する市民の割合	%	80	63	42	64	効果が上がった	×
		満足を感じた人の割合（アンケート回答より）	%	100.0	93.8	76.0	90.3	効果が上がった	×

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	2指標				
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	目標達成	達成		
	効果は変わらない指標数	0指標	未達成	2指標		
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定			
	指標全体	効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

参加者に対する市民の割合は上がり、満足を感じた人の割合は90.3%で、美術鑑賞の楽しみ方や美術館の魅力を知ってもらえた。 引き続き、美術館の魅力を知ってもらえるような講座等を計画する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 限られた予算と人で事業を実施しており、現状を維持する。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	美術館運営協議会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課		美術館運営協議会運営事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	吉澤記念美術館				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2311	名称	根拠法令、条例等		目	7	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	審議会等運営事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	1	文化芸術に触れる機会の充実						
				博物館法 佐野市立美術館条例					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	美術館の運営に関する意見や要望などを聞く。 年1回開催
------	--------------------------------

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	美術館運営協議会を開催し、美術館を円滑かつ効果的に運営できるように、委員から貴重な意見や助言を頂く。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		意見・助言数	件	値が大きいほど良い	5	5	5	5	5

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	2/18開催、出席者9名	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議開催回数	回	1	1	1	1
		事業費計	千円	46	46	61	68
		一般財源	千円	46	46	61	68
		特定財源（国・県・他）	千円				

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果	効果	
	目標未達成だった指標数	0指標		効果が上がった	効果は変わらない
	効果が上がった指標数	1指標		1指標	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	指標全体	効果が上がった	目標達成	達成	未達成
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

美術館を円滑かつ効果的に運営できるように、委員から貴重な意見や助言を頂けており、今後も必要な機会である。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 現状を維持する。
---	----------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市に関する美術作品等調査研究事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	吉澤記念美術館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2312	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	7	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	2	文化資源の有効活用						
			博物館法 佐野市立美術館条例						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市に関する美術作品等研究に関する経費
------	----------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市関連の美術作品及び収蔵品に関する情報収集により、各作品の芸術的・歴史的意義を明らかにする。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		展覧会で新しい情報を提示できた作品数	点	値が大きいほど良い	50	50	50	50	50
		解説パンフレットや図録などの発行回数	回	値が大きいほど良い	1	1	1	1	1

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	収蔵品・借用品の調査及び整理 佐野市関連作品の所蔵家訪問調査・各種問合せ対応 関連資料の収集・調査	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		研究用図書購入・文献複写資料収集件数	件	230	272	161	137
		実地調査回数	回	40	11	14	10
		事業費計	千円	28	39	204	399
		一般財源	千円	28	39	204	
		特定財源（国・県・他）	千円				399
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	各種資料の収集や、美術館所蔵作品及び佐野市ゆかりの美術作品等の調査研究を行い、その研究成果を、展覧会展示に活用した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		展覧会で新しい情報を提示できた作品数	点	40	178	334	337	効果が上がった	○
		解説パンフレットや図録などの発行回数	回	1	0	1	1	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果	効果が上がった	効果が変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	0指標				
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	目標達成	達成	2指標	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成		
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定		
	指標全体	効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※1 0万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

美術作品を収集してきた方が高齢になり、作品の調査依頼が増えてきているが、ほかの業務もあり、調査研究にかける時間を今以上に確保することが課題である。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 限られた予算と人で事業を実施しており、現状を維持する。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	天明鑄物のまちづくり推進事業	実施計画事業or一般事業	施計画事	市長公約①	3-⑤	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課				款	2	新規or継続	継続事業
	係	天明鑄物まちづくり係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2312	名称	根拠法令、条例等		事業 期間	目	18	義務or任意
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	佐野市地域おこし協力隊設 置要綱等	開始年度		R2	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度			事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
		基本事業	2		文化資源の有効活用				

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	市天明鑄物振興協議会を核とし、海外展開可能性を含め新たな販路開拓や消費者ニーズに合わせた商品開発や認知度向上の取組、鑄物を活用した文化の振興のための事業を行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	天明鑄物の各種PR事業を実施により、認知度向上と交流人口の増加及び地域活性化を目指す。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		天明鑄物を知っている割合	%	値が大きいほど良い	77.0	77.5	78.0	78.5	79.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	○天明鑄物地域おこし協力隊活動支援 ○田村耕一と天明鑄物 ふるさとの銘品に出合う会〜WITH高校茶道部〜vol.3（天明鑄物を使用した高校生向け茶会）開催 ○天明鑄物PRイベント「手で感じる天明鑄物〜とびこもう鑄物の世界へ〜」開催①天明鑄物の作品展示②鑄物師によるワークショップ【天明鑄物体験講座〜錫のお香立て作り〜】【錫を使って！天明鑄物のプレート作り】【ちいさなお皿づくり教室】【天明鑄物デコレーションペーゴマ作り&ペーゴマ遊び体験】 ○東京ビッグサイトにおいて日本商工会議所主催「f e e l N I P P O N 春2026」ブースにて「天明鑄物」出展 ○佐野商工会議所「まちの学校」で天明鑄物関係のワークショップ開催 ○シンガポールにおけるプロモーション活動の実施	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		天明鑄物PR事業実施回数	件	2	2	2	2
		事業費計	千円	548	1,766	5,071	4,979
		一般財源	千円	548	1,766	5,071	4,979
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	各種PR事業を実施したものの、市政アンケートによる天明鑄物の認知度には反映されていない	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			天明鑄物を知っている割合	%	72.5	72.9	74.2	70.8	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標
	効果が下がった指標数	1指標	目標未設定		
指標全体		効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

R6.3月から地域おこし協力隊を任用したため、その費用分が増加している。天明鑄物の活用に関し、組織横断的に取り組む。また商工会議所など関係機関と連携し、商品開発や販路開拓及び認知度向上の取組支援と、文化財課との連携による歴史文化面からのPRを行う。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 天明鑄物の活用に関し、組織横断的に取り組む。また商工会議所など関係機関と連携し、商品開発や販路開拓及び認知度向上の取組支援と、文化財課との連携による歴史文化面からのPRを行う。
--	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名		予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課		佐野市郷土芸能保存会連絡協			款	2	新規or継続	継続事業
	係	文化推進係		議会支援事業			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2312	名称	根拠法令、条例等		事業期間	目	18	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	佐野市補助金等交付規則				開始年度	H2	実施方法	一部委託
	政策	3					終了年度	－	事業分類	支援事業
	施策	1								
	基本事業	2								

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	伝統文化の保存・継承を図るため、加盟団体の行う後継者育成を支援するとともに、郷土芸能に対する市民の認知を高めるため、フェスティバルの開催や学校への訪問講座といった活動の支援を行う。
------	--

(2) 目的		(3) 目標値			↓選択して下さい	後期計画				
目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	協議会の円滑な運営及び財政の健全化を図り、郷土芸能の保存・継承活動を継続的に行える状態を維持するとともに、より多くの市民に佐野市の郷土芸能を認知してもらえるよう活動を行う。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11	
		事業(フェスティバル、学校訪問)の延べ来場者数、参加者数	人	値が大きいほど良い	1,060	1,100	1,100	1,200	1,200	
		事業(フェスティバル、学校訪問)への子どもの参加人数	人	値が大きいほど良い	84	－	－	－	－	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	総会1回、理事会3回の開催 第36回佐野市郷土芸能フェスティバルの開催（令和8年1月18日） 学校訪問事業2回の実施 ・犬伏東小学校（燈塚宮比講神楽保存会） ・葛生義務教育学校（越名舟唄保存会）	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		協議会加入団体会員数	人	202	199	184	180
		協議会加入団体数	団体	11	11	11	11
		伝統文化の発表の場への参加団体数	団体	3	5	3	6
		事業費計	千円	600	600	600	600
		一般財源	千円	513	600	600	600
		特定財源（国・県・他）	千円	87			
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（３）活動による効果		（４）事業効果を説明する数値データの推移							
効果説明	今回初めてイオン佐野新都市店で開催した郷土芸能フェスティバルでは、6団体が出演し延べ1,000名を超える集客を得ることが出来た。また、学校訪問事業では、令和7年度も各郷土芸能にゆかりのある学校から募集がみられ、認知及び定着がなされてきていると言える。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		事業(フェスティバル、学校訪問)の延べ来場者数、参加者数	人	450	600	250	1,060	効果が上がった	○
		事業(フェスティバル、学校訪問)への子どもの参加人数	人	127	85	85	84	効果が下がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標
	効果が下がった指標数	1指標		目標未設定	
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

費用を有効活用するための方法を検討する。 郷土芸能フェスティバルについて、令和7年度は新たな会場での実施を試みたため、それを踏まえた令和8年度の会場や構成を考える必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ・費用の有効な活用方法について検討する。 ・郷土芸能フェスティバルの会場、構成等について、令和7年度を踏まえた企画を行う。
--	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	文化会館リニューアル事業	実施計画事業or一般事業	施設画事	市長公約①	1-⑤	市長公約②	Ⅲ－①	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当あり

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	文化推進課		文化会館リニューアル事業		款	2	新規or継続	継続事業
	係	文化推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2313	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	19	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	R1	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	R8	事業分類	施設等整備事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	3	文化芸術施設の基盤強化						
				PFI法					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	文化会館は、昭和54年の建設から40年以上が経過し老朽化が顕著なため、市民が安心安全に利用できる状態にするために、P P P・P F I 等民間活力による改修及び運営を導入し、現在令和9年4月のリニューアルオープンを目標とし改修工事を実施している。
------	--

(2) 目的		(3) 目標値				↓選択して下さい					後期計画				
目的 (本事業によって成し 遂げたい 状態)	市民が安全安心に文化会館を利用できるようにする。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11						
		文化会館改修済割合	%	値が大きいほど良い	35.47	100									

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	実施設計に向けた協議（4月～10月） 改修工事現場総合定例会議（12月～3月）	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		文化会館改修済床面積	m ²	0	0	0	1,010.41
		評価委員会開催数	回	1	2	0	0
		事業費計	千円	18,008	10,653	95,584	1,040,037
		一般財源	千円	18,008	7,653	62,284	53,937
		特定財源（国・県・他）	千円		3,000	33,300	986,100
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果		（4）事業効果を説明する数値データの推移							
効果説明	事業者との協議を実施し、令和8年12月竣工に向け事業を進めている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		文化会館改修済割合	%	0	0	0	13.4	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標			
	効果は変わらない指標数	0指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	達成	未達成	1指標
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※10万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

新築工事ではなく、改修工事のため、事前調査や事前調査の結果の対応に時間がかかってしまった。 令和8年12月竣工に向けて、遅滞なく大規模改修事業が進むよう事業者との調整を図る。またそれに合わせ、リニューアルオープン及び予約開始をいつにするか検討する必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 現状の計画通り、事業が進行するよう、事業者やコンサル、建築住宅課と進捗状況を確認する。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	美術館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	吉澤記念美術館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2313	名称	根拠法令、条例等		目	7	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	文化芸術活動の推進						
	基本事業	3	文化芸術施設の基盤強化						
			博物館法 佐野市立美術館条例						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	美術館の維持管理運営に関わる諸経費
------	-------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	美術館敷地、施設設備、収蔵作品に関して、施設の維持管理をと おして快適な環境を整備し、市民及び市外からの来館者が文化・ 芸術に触れる機会の充実を図る。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		不満及び要望・希望件数／来館者数	%	値がいはいほど良い	0.0	0.3	0.3	0.2	0.2

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	・施設設備の維持管理にかかる消耗品の購入 ・所蔵作品盗難保険・受託者賠償責任保険への加入 ・美術館ボランティアに対する学習会の実施 ・受付・清掃・保守・警備等年間業務委託	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		業務委託件数	件	12	13	13	15
		修繕件数	件	2	6	7	2
		開館日数	日	229	230	233	227
		事業費計	千円	21,481	22,070	22,612	25,966
		一般財源	千円	12,885	15,088	15,364	18,229
		特定財源（国・県・他）	千円	8,596	6,982	7,248	7,737
		（うち受益者負担）	千円	2,204	1,773	3,934	2,088

（3）活動による効果

効果説明	十分な施設の維持管理をとおして快適な環境を整備し、文化・芸 術に触れる機会の充実を図れた。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			不満及び要望・希望件数／来館者数	%	0.1	0.1	0.1	0.1	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	1指標				
	効果が上がった指標数	1指標				
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	目標達成	達成	1指標	
			目標未設定			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

来館者からは、静かで落ち着いた環境でよいという意見が多く聞かれる。 植栽や芝・池の美観維持のため努力されたいという意見も寄せられている。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 限られた予算と人で事業を実施しており、現状を維持する。
---	---